

情報を重視した販売強化に向けた 小ギク産地の育成

県銘柄産地に指定されているJA茨城中央花き部会（93名）の「小ギク」は、地域農業を牽引する品目となっています。産地では、高齢化やこれに伴う生産者減少による産地活力の低下が懸念される一方、時代の流れである「セリ前取引拡大による情報販売強化」への早急な対応が実需者から求められてきました。そこで、普及センターにおいては、様々な機会をとおり産地課題や改善策等を提示し、関係機関一体となった様々な取り組みを実践し、地域農業活性化を先導する組織を育成しています。

● 出荷情報提供時間の早期化 ●

セリ前販売を他産地より早く展開するため、市場が行う買参人への出荷情報配信に充分間に合う時間に出荷情報を提供する必要があります。このためJAと普及センターが、総会等において「情報に基づく販売」の重要性について部会員の認識強化を図ったことをきっかけに、集荷時間および出荷情報提供時間を2時間早める取り組みが開始されました。



JA 茨城中央の物流・情報の流れと改善時間



マスコミを招いてのエコファーマー認定書交付式

● 付加価値「エコファーマー認定」 ●

花き分野では、組織でのエコファーマー認定はまだ希少なため、セリ前取引の付加価値づけに役立てることができます。そこで、導入する技術の実証とともに部会員への制度説明会を経て、全共選キク栽培者50戸の認定を取得しました。

今後、良品産地イメージに「エコ」のイメージを付加することで、有利販売に結び付くよう販売促進活動を展開することが計画されました。

● ロットの拡大・安定 ●

募集した新規生産者に対して、普及センター・JA・高い技術を有する生産者がオリジナルマニュアルに基づいた支援を行い、6戸48aで約15万本の出荷を実現しました。また、既存生産者については、ほ場現地検討会等をおして商品化率向上を図るとともに、作期拡大のための施設栽培は13戸で計87a取り組みました。この結果、部会全体では、秀品率は3%向上して48%、出荷本数は前年対比105%の445万本になりました。



新規生産者のための栽培講習会